



# 慶應言語学 コロキウム

慶應義塾大学言語文化研究所  
The Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies

## ミニマリストプログラム 30年の足跡

講師：林 慎将（南山大学）

司会・コメンテーター：内堀朝子（東京大学）、北原久嗣（慶應義塾大学）

日時：2024年10月12日（土）～13日（日）13:30～18:30

会場：慶應義塾大学三田キャンパス東館6階 G-Lab

使用言語：日本語

※対面開催のみ（オンライン配信の予定はありません）

※今回のセミナーは生成文法研究の専門的知識が前提となります

参加申込：研究所ホームページもしくは右のQRコードよりお申込み下さい

\* 準備の都合により、事前申込をお願いいたします。

\* 事前にお申込みいただかない方の当日参加も可能ですが、会場にて参加者カードへの記入が必要となります。



1995年にThe Minimalist Programが刊行され、そこから生成文法は新たな局面を迎えました。このミニマリストプログラムが始まって30年経ち、枠組みがアップデートされ続けた結果、理論の継続性や、なぜとある枠組みにおいてこのような提案が「突然」なされたのかが分かりにくい、という声も聞きます。本コロキウムでは、Chomskyの30年に渡る代表的な論文をレビューし、ミニマリストプログラムがどのような一貫した問題意識の元で理論を進展させているのかを考えます。

特に、現在の視座から過去の論文、枠組みを精査、議論することで、現在の枠組みの様々な提案がどこに根ざしているのか、また、過去の枠組みで捉えられていた問題のうち、現在の枠組みで取り残されているものはないのかを浮き彫りにすることを目指します。前者について、単にとある理論装置を分析の道具として使うのではなく、その背後に存在する考え方の根本を理解することは、原理的な説明（principled explanation）/真の説明（genuine explanation）のためには不可欠なものであり、過去の論文のインサイトを現在の枠組みで捉え直すことは、新たな理論的可能性を開く助けともなりえます。また後者の観点は、今後の生成文法理論の発展にとって有益な（忘れられた）脈脈を見つけるために有益なものとなると思われます。

本コロキウムは、これから生成文法の理論研究を行いたいと考えている大学院生、現在ミニマリストプログラムの中で研究を進めている研究者、過去にとある枠組みで研究をしていたが、そこからどういった流れになったかを知りたい方等、幅広い関心を持つ方を対象とします。内容としては主に以下の論文を扱い、その主張や理論の流れを考えていく予定です。

Chomsky 1995 The Minimalist Program

Chomsky 1998 Some Observations on Economy in Generative Grammar

Chomsky 2000 Minimalist Inquiries: The Framework

Chomsky 2001 Derivation by Phase

Chomsky 2004 Beyond Explanatory Adequacy

Chomsky 2005 Three Factors in Language Design

Chomsky 2007 Approaching UG from Below

Chomsky 2008 On Phases

Chomsky 2013 Problems of Projection

Chomsky 2015 Problems of Projection: Extensions

Chomsky 2020 The UCLA Lectures

Chomsky 2021 Minimalism: Where Are We Now, and Where We Hope to Go

Chomsky in press The Miracle Creed and SMT

主催 慶應義塾大学言語文化研究所

[お問い合わせ先]

〒108-8345 港区三田2-15-45 慶應義塾大学言語文化研究所  
電話：03-5427-1595（事務室直通） メール：genbu@icl.keio.ac.jp  
<http://www.icl.keio.ac.jp>